

## 県庁生活衛生課です／水道水の環境貢献（の再評価）

兵庫県保健医療部生活衛生課の谷原です。（4月から部局再編により部名等が変わりました。）

6月に入り、夏が近づいて参りました。年々暑くなる夏を迎える度に、環境問題が身近で重要なことであると感じます。



今号の話題 \_\_\_\_\_

第32号 水道水の環境貢献（の再評価）



毎日飲み続ける水ですが、水の飲み方は多様化が進んでいます。ペットボトル飲料を毎日買う人や、自宅用ウォーターサーバーを設置する人まで。もちろん、日本においてはみなさまのおかげで、水道水をそのまま飲むという選択肢もあります。

どの水を飲むかを考えるとき、おいしさや値段だけで評価されていた時代もありましたが、最近は「エシカル」な商品であるかも重要な評価軸になってきています。そこで、今回のメールマガジンでは、「エシカル」の観点で水道水を再評価してみようと思います。

- 炭素排出量が少ない

水道水を商品として考えると、「容器に入れられていない」というとでも変わった特徴があることに気づきます。

一方で、水道以外のあらゆる飲料水商品は、ペットボトル等のプラスチック容器に入れられ、商店や個人宅に輸送し、最後はプラスチックゴミとして処分されています。

つまり、ペットボトルやウォーターサーバーは、水道水と比べると、容器製造・輸送・容器処分の過程で余計なCO<sub>2</sub>を排出していることとなります。

ある研究<sup>1)</sup>によると、冷やした水道水 500 mL を水筒で持ち歩く場合のCO<sub>2</sub>排出量は 31.6 g である一方、冷えた国産の 500 mL ペットボトルを買った場合のCO<sub>2</sub>排出量は 193.7 g となります（水筒は洗って再利用、ペットボトルは分別廃棄）。

つまり、毎日 1 本のペットボトルをやめて水道水+マイボトルに切り替えると、年間で約 60 kg のCO<sub>2</sub>排出量削減につながり、これは燃費 20 km/L の車で 520 km 走ったときのCO<sub>2</sub>排出量に相当します。520 km 走れば、県庁から東京まで行けますね。

#### ○ プラスチックゴミが出ない

プラスチックは自然分解されず、時に海を渡って遠く外国の海岸に漂着します。海洋プラスチックゴミ問題は重要な国際問題の一つです。また、淡路島の海岸に漂着するプラスチックゴミのうち、52%を飲料用ボトルが

占めていたという調査結果<sup>2)</sup>もあります。

ペットボトル飲料をやめて水道水+マイボトルに切り替えるということ  
とは、海洋プラスチックゴミ問題への対策としても評価されています。実  
際に、環境省のプラスチック問題対策キャンペーンである「プラスチック  
スマート」特設サイトにおいて、尼崎市・西宮市や丹波篠山市をはじめと  
した、水道局でのマイボトル用給水器の設置が多く紹介されています。ま  
た、無料給水できるスポットがわかるスマートフォンアプリ(mymizu)は、  
2020年海ごみゼロアワードで環境大臣賞を受賞しています。

・ プラスチックスマート特設サイト

(<http://plastics-smart.env.go.jp/>)

・ 海ごみゼロアワード 2020年受賞活動一覧

([https://uminohi.jp/umigomizero\\_award2021/announcement2020.html](https://uminohi.jp/umigomizero_award2021/announcement2020.html))

かくいう私も“マイボトラー”ですので、冷えておいしい水道水を無料  
給水できるスポットは、大変ありがたく活用させてもらっています。

6月1日から6月7日まではちょうど水道週間です。みなさんが供給する  
「エシカル」な水道水の魅力について、もっと県民のみなさんにアピールされ  
てはいかがでしょうか。

■ □ \_\_\_\_\_

発行：兵庫県保健医療部生活衛生課

tel：078-362-3256

E-mail：[seikatsueiseika@pref.hyogo.lg.jp](mailto:seikatsueiseika@pref.hyogo.lg.jp)

□ ■ \_\_\_\_\_

## 出典

- 1) 三木暁子他, 消費者のためのライフサイクル評価による飲料水利用のシナリオ分析, 環境科学会誌, 2010, 23(6), p447-458
- 2) 令和元年度環境省請負業務報告書 令和元年度漂着ゴミ対策総合検討業務報告書【概要版】, 令和2年3月, p.15